明るく　たくましい　明世の子

ビカリア

令和６年度
瑞浪市立明世小学校
NO．７
R6．９．３０

子どもたちの未来をつくる活動（コミスクの意義）

８月の運動場は、バッタにとって天国と呼べるほど、草が生い茂っていました。それが、子ども・保護者・地域のボランティアの力によって、きれいになりました。コミスクとして、９月に３回、草取りボランティアを行うという案内文書を地域に回覧していただきました。３日間で、のべ１０１人の協働がありました。「協働」です。「協力」や「援助」、「学校のために〇〇してやる」というものもありがたいですが、「地域の子どもの為なら」、「自分ができることをやりにいく」という主体的な行動であったと思います。参加者の年代は、１歳から 83 歳まで。４歳・５歳の園児も一緒に働いてくれました。ありがとうございました。

（８月のグラウンド）

（９月 25 日終了後）

ボランティア活動の様子

参加された方の言葉や会話を紹介します。

・子供が一緒にやってくれたで（話しかけてくれたので）楽しかった。もっと会話があるとええわ。
・子どもの歌がきけて、癒された。自分たちのころの歌とはだいぶ違うね。
・孫も学校を出ちゃうと、来ることものぅなるけんど、イベントがあると来れるで。まっとたぁへんやって。
・地域の人と久しぶりに会えたわ。地区がちがうと、なかなか会えんで。
・同級生と久しぶりに話した。懐かしかった。あのころは、まだ、校歌がなかったもんで　たるかったわ。
・運動会はいつ？　わしんたぁのころは、分団リレーがあって、月吉がいつも・・・
・年をとっても草取りならできるで来たわ。まだ、草があるで、もうちょっとやってくわ。
・少年野球やったりママさんソフトやったりして、よぅグラウンド使わしてもらったわ。草も生えんぐらい。
・親子３世代がそろいました。保護者も、たくさん来とるね。異世代の交流になるね。
・子どもに顔を覚えてもらやぁ、挨拶や声かけしても不審者と言われんよぅになるで、交流しなあかん。
・〇〇のおじいちゃんやと分かって、徘徊しとっても、うちに連れて行ってもらえるかもしれんやらぁ。

これらの言葉から、「子どものため」が「地域の元気」にもつながっているということを感じていただけるのではないかと思います。

地域と学校が協働し、子どもたちにとってよりよい社会をつくっていくことが今、求められています。大人が子どものことや地域のことを真剣に話し合っている様子、懸命に、または楽しそうに働いている様子を、子どもたちが見ることで、子どもの心が動くのだと思います。協働の中で「僕たちも次の世代の為に、できることをしよう、よりよい社会をつくろう」と考える子どもが育っていくでしょう。今、明世小学校区では、こうしたよい循環がつくられつつある、といえそうです。